

- 2面 若年者ものづくり競技大会 齋藤彩人選手(群馬県立勢多農林高校)が金賞を受賞
建設キャリアアップシステム(CCUS)有効期限5年の事業者登録更新手続き開始
【学会の目・眼・芽】“術”と“問い”の源を涵養し続ける人のつながりを想う(社)日本造園学会理事 東京都市大学環境学部 教授 横田 樹広
3面 2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO2027)進捗報告(公社)2027年国際園芸博覧会協会 広報部
2023年度「緑地樹木剪定士」研修会・試験 冬期開催 11月20日から申込受付開始へ
4面 【ふるさと自慢】自然と田園に囲まれた矢巾町 南昌山とフラワーパークの景色 岩手県支部 吉田 将太(株岩清水園芸)
【緑滴】憧れの夢の国でリフレッシュ! 福岡県支部 山木 香(九州グラウンド株)

都市緑化キャンペーン2023 斉藤鉄夫国土交通大臣も花鉢配布しPR



中央：斉藤鉄夫国土交通大臣 左：高梨雅明都市緑化推進運動協会会長、右：河村正人2027年国際園芸博覧会協会事務総長、着物の女性は第28代、第29代さくらの女王
「都市緑化キャンペーン2023」が10月6日、東京都千代田区の有楽町駅前広場で行われた。
キャンペーンは、「ひろげよう 育てよう みどりの都市」をテーマに、日造協をはじめ、緑化関連の17団体で構成される都市緑化推進運動協会等が主催、国土交通省、東京都、千代田区、全国知事会・市長会・町村会の後援で開催。

樹林

(一社)日本造園建設業協会理事 (株)執行茂寿園 代表取締役 執行 英利



明治神宮の杜

神宮外苑の再開発が話題になっています。

明治神宮の森ということで50年ほど前に聞いた話を思い出しました。昭和49年に東京都調布市深大寺の造園会社に就職した私は、先輩の社員さんや職人さんについて、さまざまな現場を体験していました。

そんな職人さんのなかでも一番年配の斉藤松五郎さんという当時の私から見ればおじいさんの親方がいらっしゃいました。

松五郎さんは、休憩の時間には孫のような年齢差の私にたくさんの昔話をしてくれました。

「執行くんは九州から来たんだってな。俺も昔、佐嘉神社の造営で九州にいったんだ。軒先の低い街並みだったな。ありゃ、台風の風に用心してだろうな。」

昭和4年の佐賀神社の造営の話や、関東大震災の話、「東京の古い庭の灯籠はみんな傷が入ってて、震災で倒れた傷だ。あとときゃ立川のけえりだよ、甲州街道を自転車で脚立担いでたら急に揺れ出して、電信柱にしがみついたけどよ、鞭のようになつてよ」等々。

その頃に先輩から聞いたのが、松五郎さんは明治神宮の造営で、全国からの寄進された樹木を大学の先生に同行して選別をした人なんだよということでした。

令和2年に明治神宮が鎮座100年を迎えた折、神宮の森が取りざたされ、久しぶりに松五郎さんを思い出し、調べてみると造営の前後にはスペイン風邪の流行や、関東大震災等の大きな災害があった時代だったようです。

当時の明治神宮の造営予定地は原野が広がり代々木の原と呼ばれていて、人工林を作る必要がありました。そこで林学の本多静六先生や上原敬二先生をはじめ一流の造園学者が集められたようです。

明治神宮の創建が告示された時の総理大臣大隈重信は、本殿を囲む鎮守の杜は、日光東照宮や伊勢神宮のような、杉の森にすべきだと主張しましたが、本多静六先生らは、当時すでに発生していた煙害や代々木の自然環境から広葉樹林にすべきだと、さまざまなデータをを用いて説得し、大正4年から植樹が始まったとのことでした。

全国から12万本の樹木の寄進があり、その選別に松五郎さんが関わったらしいのですが、今となっては同行した大学の先生とは誰だったのか調べようもありません。

私が深大寺に居た当時、近くの酒屋の離れに上原敬二先生が住んでいらして、前にも「樹林」に書きましたが家族が全員スペイン風邪で亡くなり一人だったようで、もしかしたら上原先生だったのかもしれない。

先に書いた佐嘉神社も佐嘉神社御由緒を見ると、昭和4年に鍋島藩第10代藩主鍋島直大公の国家的御鴻業に対し、昭和天皇の思召しにより、御創建と記してあり、松五郎さんは明治神宮創建時の経験と当時はすでに亡くなっていましたが、大隈重信公の生家が神社のそばでもあり何かの大隈つながりがあったのかもしれない。

50年前に聞いた50年前の話ですが、改めて日本の造園学の歴史の流れに思いを寄せました。

会員限定「造園デジタル図書館」開設のお知らせ 閲覧自由 各種資料を有効活用

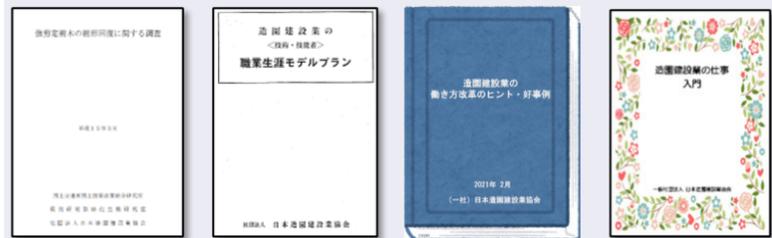
技術委員会造園技術フォーラム部会では、日造協会員の皆さまに各種資料を有効に活用いただくために、データ化した資料をホームページ上に保管し、自由に閲覧ができる「造園デジタル図書館」を開設しました。ぜひご活用ください。保管資料は随時増やしていく予定です。

- 【主な特徴】 ・日造協会員限定 ・無料・返却不要 ・24時間いつでも閲覧可 ・ダウンロードも可能

- ◆目的：日造協にある造園に関する情報を日造協会員へ提供するため
◆利用できる方：日造協正会員企業に所属する方(会社代表者、会員サイトに登録された社員)
◆資料：造園に関する以下の情報データ(PDF、ワード、動画のリンク等)
✓現場に役立つ技術や安全に関する情報
✓経営に役立つ法令や経理に関する情報
✓業界活動に役立つ資格情報
有償販売しているものを除く。

「造園デジタル図書館」で閲覧できる資料

①PDFデータ(報告書・冊子・パンフレット等)



②講演会や造園技術フォーラムの動画リンク



③外部サイトにある資料のリンク

例)「街路樹管理マニュアル」(関東地方整備局) https://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000821452.pdf

人事異動

【国土交通省人事】(10月1日) 退職(9月30日付) = 五十嵐 康之(大)

臣官房審議官(都市生活環境・国際園芸博覧会担当)
大臣官房審議官(都市生活環境・国際園芸博覧会担当) = 勝又 正秀(独) 日本高速道路保有・債務返済機構理事)

「造園デジタル図書館」の閲覧方法

◆日造協会員サイトへのログイン◆ https://jalc.kktcs.co.jp/jalcmember/jalcmember/Login.htm

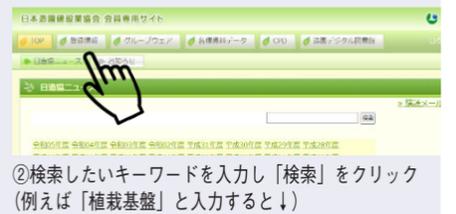
①HPのトップページ右上の「会員サイトログイン」をクリック



②ユーザーIDとパスワードを入力し「ログイン」をクリック



◆閲覧◆ ①最上段メニューの「造園デジタル図書館」をクリック



②検索したいキーワードを入力し「検索」をクリック(例えば「植栽基盤」と入力すると!)



齋藤彩人選手（群馬県立勢多農林高校）が金賞を受賞 若年者ものづくり競技大会

第18回若年者ものづくり競技大会が8月1、2日に静岡市下の2会場にて開催された。本大会は、厚生労働省と中央職業能力開発協会（JAVADA）の主催により、高等学校等で技能を習得中の企業等に就業していない20歳以下の若年者を対象に、日々学校や訓練等で培った

技能を競い合うことで次世代のものづくり産業を担っていく若き技能者の育成を目的に開催されている。

今年度は前回の広島開催に引き続き一般入場を開放した開催となり、造園を含め15職種で競技が



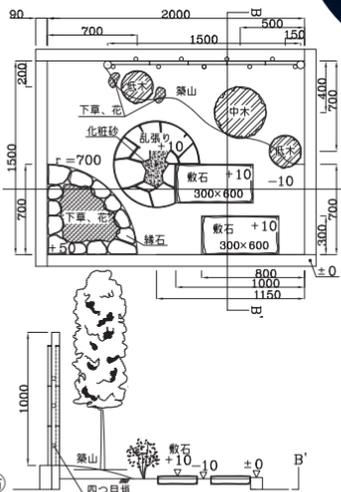
会場の様子

造園競技 第18回大会 入賞者

金賞	齋藤 彩人	群馬県立勢多農林高等学校
銀賞	西部 愛瑠	東京都立園芸高等学校
銅賞	守屋 智望	岡山県立興陽高等学校
〃	竹内 杏悟	三重県立四日市農芸高等学校
敢闘賞	座馬 青葉	岐阜県立加茂農林高等学校
〃	西川 智仁	愛知県立猿投農林高等学校
〃	牧野 諒	千葉県立茂原樟陽高等学校



金賞を受賞した齋藤選手作品①と課題の平面図、断面図②



実施された。

造園競技は2会場のうちツインメッセ静岡にて開催され、高校生や専門学校生15名が出場した。

決められた課題を2×1.5m区画に、制限時間（3時間半）内に一人作業で作庭する。

四つ目垣の作成や乱張り、石積み、植栽など技能検定2級レベルの課題に取り組み、群馬県立勢多農林高等学校の齋藤彩人選手が金賞を受賞した。

今後も技能者を目指す若者がさらに増

えていくとともに、造園業界としてもこの大会を通じて、技能技術をより一層研鑽し、全国各地の優れた若い技能者と交流できる意義深い機会になることを期待したい。

技術委員会 技能五輪部会 西村剛彦

建設業振興基金
期限半年前にメール

建設キャリアアップシステム (CCUS)

有効期限5年の事業者登録 更新手続き開始

期限1カ月前までに更新手続きを行うなど確実に対応を

2019年4月から本運用を開始した建設キャリアアップシステム（CCUS）は、2024年3月末で本運用開始から5年となり、初期に登録した事業者から順次、事業者登録期限となるため、2023年10月から更新手続きを開始した。

CCUSは、2022年度末時点で技能者約114万人、事業者約21万7千者が登録されている。

9月末には有効期限の半年前となる2024年3月末期限の約8,500者（一人親方約700者）に建設業振興基金から、「CCUS事業者登録更新のお願い」のメールが、登録責任者のメールアドレスあてに送信されている。

メールを受け取った際には、メール本文のURLからCCUSにログインし、事業者登録情報を確認のうえ、「更新申請」を行う必要がある。

更新に当たっては、登録情報に変更があった事項のみを審査するなど、手続きの簡素化を図っており、運営主体の建設業

振興基金は、有効期限の1カ月前までの更新手続きを呼びかけている。

更新は、インターネットか認定登録機関で更新申請、審査を受け、更新登録料（一人親方無料、個人事業主6,000円～資本金に応じ240万円）を支払い、入金確認されると更新手続きが完了する。

なお、登録料のほか、1年ごとの管理者ID利用料（一人親方2,400円、ID1件ごと11,400円）の支払が別途あり、このID利用料を支払っていない登録事業者はCCUSの利用が停止されているため、インターネットで申請する場合には、利用停止措置を解除するために未払い分を支払う必要がある。

なお、更新しない登録事業者のIDは無効となり、有効期限満了後にCCUSを利用する場合は、新規登録と同等程度の手続きが必要とされている。

国土交通省は、建設技能者の技能と経験に応じた賃金支払い・処遇改善と、現

更新完了までの流れ

Step1

「CCUS事業者登録更新のお願い」メールを確認
更新の半年前に、登録責任者宛てに届きます。

Step2

更新の申請を行う

インターネットまたは認定登録機関にてお手続き。
（更新内容に基づき、審査させていただきます）

Step3

事業者更新料のお支払い

審査完了後、メールまたは郵送にて案内
※一人親方は無料です。

事業者更新完了

※管理者ID利用料は、従前と同じ月のお支払いとなります。

ポイント

■更新手続：有効期限の半年前から可能

- 「更新のお願い」メールを必ず確認
- 有効期限の1カ月前までには更新申請
- 更新しないとCCUSは利用できない

■更新申請：簡素化

- 申請は、変更箇所のみ
- 変更なし：新たな証明書類等の添付不要
- 変更あり：更新申請で変更可能

■証明書類等が必要なケース

- 登録情報のうち①～⑦の変更がある場合
- ①商号または名称
- ②建設業許可の有無（有の場合：建設業許可番号）
- ③法人・個人区分（法人・個人・一人親方のいずれか）
- ④法人番号
- ⑤代表者名
- ⑥所在地
- ⑦資本金（個人事業主の場合は0円）
- 建設業許可の更新・変更がある場合
事業者確認書類が必要
- 社会保険等の変更がある場合
証明書類が必要
- ※証明書類はインターネット申請はjpeg画像データ、認定登録機関申請は原本が写しが必要。

場の生産性向上を図るための建設キャリアアップシステムとして、令和5年度から「あらゆる工事でのCCUS完全実施」に向け、①建退共のCCUS活用への完全移行、②社会保険加入確認のCCUS活用の原則化、③国直轄での義務化モデル工事实施等、公共工事等での活用の3つの具体策を掲げ、「業界共通の制度インフ

ラ」としてCCUS活用を要請。民間工事も含めたCCUS活用への完全移行に取り組んでおり、今回の更新申請の日造協会員の確実な対応が求められる。

詳しくは（一財）建設業振興基金のホームページをご覧ください。https://www.ccus.jp/p/application_jigyousya_renewal

学会の日・眼・芽 第137回

“術”と“問い”の源を涵養し続ける人のつながりを想う

（公社）日本造園学会理事 東京都市大学環境学部 教授 横田 樹広

この夏、4年ぶりのゼミ合宿で、奥多摩の水源地での沢登りを学生達と楽しみました。

よく管理された林内から谷ごとに湧き出す沢の水は、体を涼しめ、心を爽快さで満たし、自分が研究の拠り所とする流域のありようとして、研究マインドに新たな風を吹き込んでくれました。

学会理事会の準備の合間だったこともあり（笑）、時を超えて流れる多摩川の上の自分と、学会での自分を、どこか重ねました。

さて、日本造園学会は、1925年に創設され、2025年4月、100周年を

迎えます。これにあたって「造園学会100周年記念事業」がスタートしました。

そのハブとなる日本造園学会100周年記念事業推進委員会では、「出版部会」「記念行事部会」「インフラ部会」を構成し、100年の資産を将来世代に遺すとともに、学としての展望の共有と、時代に即した活動基盤の構築を目指し、活動を展開しています。

高度に専門化される職能を支える学“術”としての確かさと、科学と社会の横断も担いながら発展し続ける学“問”としての包括性を、よりたくしなやかな体系として継いでいくための要石になることと思います。

環境・社会の変化に対する持続可能性を支える学“術”の場としての学会の役割も、ボーダーを超えてネットワーク化されたコミュニティに依拠します。これによって私たちは、経済的な論理で区切られたシステムとも客観的に相対することができます。

またランドスケープの領域は、学際性を問われずとも、そもそも境界線を引くことに頼らない人と“問い”を育み、それを学の基軸としてきたはずで

す。先人による叡智こそ、「脈を分かつ」ことよりもむしろ、「脈に注ぐ」ことに向けられてきたのではないかと、想いを馳せます。

多摩川に戻りますと、川は流域の地

下水脈なくして成らず、それを涵養し続ける圏域の総体こそが持続する豊かさの源です。そしてその持続に必要なのは、環境や空間そのものです。

同じように、社会との連携なくして、学会100年のマイルストーンは生まれません。イノベーションも我々の内にあると、自問します。

ボーダーのないところから人がつながり、それが最も深いところにある学の脈を涵養し続ける学会の豊かさを、将来世代も感じられることを願ってやみません。

ぜひ一緒に、大きな脈の中に身を置ける有り難さを共有しつつ、次の100年の“術”と“問い”の源を考えることができたらと願っております。

2027年国際園芸博覧会 (GREEN × EXPO 2027) 進捗報告

公益社団法人 2027年国際園芸博覧会協会 広報部

2027年国際園芸博覧会は、日造協が日本で唯一の正会員として日本国窓口を担っているAIPH（国際園芸家協会）の園芸博とBIE（博覧会国際事務局）が認めるA1クラスの博覧会で「大阪花博」以来となり、大阪花博が造園産業の振興に大きく貢献したことから、「横浜花博」に寄せる業界の期待も高まっている。本号では、(公社)2027年国際園芸博覧会協会広報部から、進捗状況についてご報告をいただいた。

はじめに

2027年3月から神奈川県横浜市で、国際園芸博覧会を開催します。A1クラスの博覧会は、日本では1990年「大阪花の万博」以来、37年ぶりの開催であり、首都圏で開催される初めての万博です。

幅広いテーマを用いて業界の魅力を発信していく中、日本が誇る庭作りの技術や匠の技、伝統、人、緑化技術などにも着目いただけるよう計画を進めております。ぜひともご注目いただければ幸いです。

国際園芸博覧会とは

国際園芸博覧会は、国際的な園芸・造園の振興や花と緑のあふれる暮らし、地域・経済の創造等を目的に、世界各国で開催されてきた博覧会です。日本においては、2005年の愛知万博や2025年開催予定の大阪・関西万博に続いて開催される国内7回目のEXPO（万博）となります。

なお、前述のとおり、日本で開催されるA1クラスの国際園芸博覧会としては、1990年に大阪の鶴見緑地で開催された国際花と緑の博覧会(大阪花の万博)以来、37年ぶり2度目の開催となります。

大阪花の万博はアジア初のA1クラスの国際園芸博覧会であり、約半年間の会期で2,300万人以上の参加者数を記録しました。これを契機にいわゆる「ガーデニングブーム」が起き、花壇苗の出荷量が増加するなど産業振興に大きな効果をもたらしました。

AIPH 視察団、来日

2023年7月11日～12日の2日間に渡り、AIPH（国際園芸家協会）の視察団7名が来日し、会場予定地である旧上瀬谷通信施設跡地(神奈川県横浜市)の視察のほか監督省庁(国交省、農水省)及び開催自治体(神奈川県、横浜市)への表敬訪問、園芸博覧会との意見交換会等を行いました。

博覧会協会との意見交換会では、各領域の準備状況に関してさまざまな質問がありました。

また、副会長のビル・ハーディ氏からは「我々AIPHは、皆さまをサポートするために存在する」と大変心強いお言葉を頂戴いたしました。

なお、日本造園建設業協会は、日本で唯一の正会員としてAIPHの日本国窓口を担当されていることから、意見交換等には和田会長をはじめ、幹部の方々にもご出席いただきました。(写真1、2)

キックオフミーティングを開催

9月26日に横浜市・横浜商工会議所と共催で、官・民・学等を対象とした「共創キックオフミーティング」をパシフィコ横浜ノースにて開催しました。

本イベントには、企業、自治体、大学、花・みどり団体等、650名を超える多くの皆様にご参加いただきました。

第1部では、GREEN × EXPO ラボの涌井史郎チェアパーソンと隈研吾マスターアーキテクトのキックオフトーク、河村正人事務総長によるプレゼンテーションが行われました。

プレゼンテーションでは、上瀬谷に残された貴重な自然資本と、自然特性を生かす「Nature-based Design = ありのままの自然環境を活用したデザイン」という考えに基づいて会場の基盤を造り、国産木材を出来るだけ使用しながら、環境負荷低減、資材有効活用を目指したGREEN サーキュラー建築の導入。

会場内には、独自の取り組みとなるテーマ共創事業としてGXを実現する5つの「Village」を設け、多くの企業・団体等の皆様からGREEN × EXPOのテーマに同いただき、「幸せを創る明日の風景」を共に創りたいと、園芸博覧会が目指すビジョンや共創の姿についてお伝えし、参加者と共有しました。

第2部では、GREEN × EXPO 2027における出展・協賛等に関する参加メニューについての説明を行い、企業・団体等の皆様への参画を呼びかけました。



写真1 博覧会協会訪問

なお、「共創キックオフ・ミーティング」の資料、アーカイブ動画は、HPに公開予定です。<https://expo2027yokohama.or.jp/sponsorship/>

今後について

現在、各国政府や日本国内の自治体、企業、団体等に対する参加招請や出展者・支援者・来場者に向けた機運醸成等の取り組みなど、2027年の開催に向けた準備を進めています。これらの情報は、公式ウェブサイトや公式SNSで随時発信していきます。



写真2 瀬谷現地視察

公式ウェブサイト
<https://expo2027yokohama.or.jp/>
 X (旧 Twitter)
https://twitter.com/expo2027_japan

2023年度「緑地樹木剪定士」研修会・試験

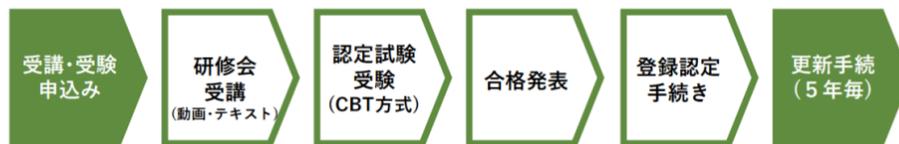
冬期開催 11月20日から申込受付開始へ

日造協が創設した資格制度「緑地樹木剪定士」の今年度の開催についてご紹介します。

「緑地樹木剪定士」とは

緑地樹木剪定士とは、公園や緑地に植栽された樹木を適切に育成管理できる剪定のプロフェッショナルのことである。資格制度を通じて、国土交通省の取り組む「インフラ長寿命化計画」や美しいみどり環境の実現等の社会的要請である公園や緑地に植栽された樹木を適切に育成管理でき、利用者への安全配慮ができる技術者の育成に寄与することをねらうものである。

認定までの流れ



※ CBT方式とは：全国47都道府県に300会場以上あるテストセンターのパソコンにて試験を実施する仕組み

2023年度（冬期）の開催要項

受講・受験資格：街路樹剪定士であること。
 ※ 同一開催回の複数回受験は不可
 研修受講：当協会のテキストおよび動画研修の視聴
 試験方法：CBT方式による四肢択一式
 20問 45分
 申込期間：2023年11月20日～12月19日まで
 研修期間：2023年12月6日～2024年1月5日まで
 試験期間：2024年1月6日～1月31日まで
 受講・受験料：一般：¥35,200
 (税込・テキスト代含む)
 日造協会員：¥18,700
 (税込・テキスト代含む)
 支払方法：クレジットカード、コンビニ振込など

2027年国際園芸博覧会の概要

- 名称：2027年国際園芸博覧会
International Horticultural Expo 2027, Yokohama, Japan
- 会場：旧上瀬谷通信施設(神奈川県横浜市)
- 開催期間：2027年3月19日～2027年9月26日
- 博覧会区域：約100ha(内、会場区域80ha)
- 参加者数：1,500万人(地域連携やICT活用などの多様な参加形態を含む)、有料来場者数：1,000万人以上
- 資金計画：会場建設費320億円(財源：国、地方公共団体、民間による負担) 運営費360億円(財源：入場料、営業権利金等)

操作性up!
低ハンドルタワーの刈払機が新登場!3種類の刈刃で、
草むら・茂みの伐採に大活躍!

35cm³のエンジン刈払機と同等のパワーを発揮!

NEW
バッテリー式刈払機 535iFR

メーカー希望小売価格(税込) **96,800円** (税抜 88,000円)

ハンドル 両手
 質量(バッテリー除く) 4.5kg
 モータータイプ BLDC(ブラシレスE-TORQモーター)

付属品
 ・刈刃
 ・ナイロンカッター[135 M12]
 ・グラスブレード[300-3枚刃]
 ・鋸刃[スカーレット200-22T]
 ・ガード各1枚(計3枚)
 ・ハーネス(バランス55)

■推奨バッテリー **BLI300** 967071901
 ■推奨充電器 **QC500** 967091504

お問い合わせはお近くの販売店まで!
ハスクバーナ・ゼノア株式会社
 〒350-1165 埼玉県川越市南台1-9
 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝日除く)
 ☎ info.hv@husqvarna.jp ハスクバーナHP www.husqvarna.com/jp/ ゼノアHP www.zenoah.com/jp/

ふるさと自慢 岩手県 自然と田園に囲まれた矢巾町 南昌山とフラワーパークの景色

私のふるさととは「岩手県紫波郡矢巾町」です。矢巾町は岩手県の中央に位置し、県庁所在地である盛岡市の南に隣接する豊かな自然と田園に囲まれたまちです。

まちの東部には東北地方最大の河川である北上川が流れ、優良農地が広がる田園地帯となっています。

交通の面でも、JR東北本線、東北縦貫自動車道や一般国道4号線など主要な路線が通っており、恵まれた立地と言えます。

この交通利便性により盛岡市のベッドタウンとして、また、北東北の物流拠点としての企業立地が進展しており、現在でも人口が堅調に増加しているまちです。

このように、市街化が進んでいる状況ですが、もともとある豊かな自然環境を活かした取り組みも行われております。



春の南昌山



南昌山と菜の花



夏の南昌山



南昌山とひまわり

緑滴 憧れの夢の国でリフレッシュ

今の私の気分をあげてくれる場所は、『ディズニーリゾート』憧れの夢の国です。

関東に住んでいたなら年間パスポートを購入したと思うほどです。

初めて訪れたのは、まだ娘が幼かった20年前。ディズニーリゾート開園20周年の年でした。

門をくぐったその瞬間から異世界に迷い込んだような、まさに夢のような世界が広がっていて、時間を忘れて朝から晩まで娘を抱えて走り回り、帰るころにはぐったりしながらミッキーさんに「また来るね」と手を振って帰ったことを覚えています。

あれから十数年が経ち、すっかり大きくなった子供たちに誘われて、久しぶりに訪れたディズニーリゾートは、さらにパワーアップしていて、ドキドキ・わくわく。

みんなカチューシャを身に付け、娘の誘導でアトラクションを駆け巡り、年甲斐もなくダンスを踊り、光のパレードを観て、あっという間の1日を過ごすことができました。

その日の疲れはありましたが、日常の疲れがどこかに飛んで行ってしまいうくらい楽しい最高の1日でした。



子供たちに誘われて訪れたディズニーリゾートでのスナップ写真

「これは、今まで頑張ってきた自分へのご褒美だ!」と、毎年行くようになり「今度は何のキャラクターコーデで行く?」「ポップコーンバケットは?」と話しをしているだけでウキウキとした気分。日程が決まった後は、ずっと笑顔で優しい気持ちで過ごすことができます。

開園40周年の今年は、Dハロ仮装でアゲアゲリフレッシュの予定です。

世界中のディズニーリゾート巡りを目標にこれからも頑張ります!

奥羽山脈の麓にあたるまちの西部地域において、フラワーパークを整備し、毎年5月には菜の花、8月にはひまわりが咲き誇り、県内随一のひまわり畑として親しまれています。

また、矢巾町のシンボルである矢巾町の西端にそびえる「南昌山」は、標高848mと特段高いわけではありませんが、古くから多くの伝説があり、雨乞いの神事が行われていた神秘的の山とされています。

童話作家の宮沢賢治とゆかりが深く、賢治晩年の作品「銀河鉄道の夜」の舞台ではないかともいわれています。

田園地域がベッドタウンとなって市街化というと、地域の自然や歴史と触れ合う機会が少なくなりがちなイメージがあると思います。

しかし、豊かな自然環境や歴史も守りつつ、どんどん発展していく矢巾町に、



南昌山麓_ぬさかけの滝

ご興味を持っていただけたら幸いです。岩手県支部 吉田 将太 (株岩清水園芸)

- 20(月)・植栽基盤整備ビデオ撮影
24(金)・中部総支部・支部との交流会
28(火)・造園・環境緑化産業振興会 代表者会議・国交省との意見交換会
29(水)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験) 大阪
30(木)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験) 福岡 ~12/1
・登録造園基幹技能者講習(大阪)~12/1
・北海道総支部・支部との交流会

委員会等の活動

- 広報活動部会
9/5 日造協ニュース10月号~2月号と新春座談会の内容について審議
●技能五輪全国大会競技委員会
9/11 11月17~19日に常滑市で行う大会の競技課題等について審議
●造園技術フォーラム部会

- 9/12 仙台開催の振り返りと次回の川崎開催について検討審議
●緑地樹木剪定士認定委員会
9/14 2023年度夏期開催の可否判定と冬期の開催について審議
●地域リーダーズ会
9/19 地域リーダーズ勉強会沖縄開催について検討審議
●技術・技能・調査部会
9/27 人材育成研修の「竹垣技法編」作成のための情報交換
●植栽基盤診断士認定委員会(試験部会)
9/28 植栽基盤診断士認定試験(学科試験)の採点と実地試験の開催について審議
●女性活躍推進部会
9/29 出前講座およびインターンシップ対応について審議

事務局の動き

- 【10月】
3(火)・広報活動部会
・グリーンインフラ産業展実行委員会
4(水)・植栽基盤診断士認定委員会
5(木)・運営会議
・2027年国際園芸博覧会特別委員会
12(水)・第2回 GREEN x EXPO 2027 花と緑の共創推進会議
・安全部会
23(月)・財政基盤強化部会・会員拡大P推進部会合同会議
・建設業労働災害防止協会との意見交換
24(火)・東北総支部・支部との交流会~25
26(木)・全国造園デザインコンクール等推進部会
・登録造園基幹技能者講習(岡山)~27
25(水)・都市公園制度制定150周年記念「ひろげよう育てようみどりの都市」全国大会講演・先進事例発表会

- 27(金)・運営会議
・都市公園制度制定150周年記念「ひろげよう育てようみどりの都市」全国大会
【11月】
1(水)・植栽基盤整備ビデオ撮影
7(火)・広報活動部会
9(日)・関東・甲信総支部・支部との交流会
・植栽基盤診断士認定試験(実地試験) 東京 ~11
10(金)・建専連 全国大会
11(土)・第18回日中韓国際ランドスケープ専門家会議~12
・2023年度関西支部大会(合同開催)
13(月)・園芸博覧会 理事会(WEB)
14(火)・コスモス国際賞記念のついで
15(水)・植栽基盤診断士認定試験(実地試験) 名古屋
17(金)・四国総支部・支部との交流会
・北陸総支部・支部との交流会
17(金)・第61回技能五輪全国大会 ~20日

【協会からのお知らせ】

2023年度街路樹剪定士研修会・認定試験を開催します。(開催一覧) https://www.jalc.or.jp/sentei/sentei03.html#page01



第18回全国造園フェスティバルを各地で開催します。ぜひお近くの会場に足をお運びください。(開催一覧) https://www.jalc.or.jp/fest/index.html



【造園用フルハーネスの購入方法】

造園の作業に適した「造園用フルハーネス」を会員特別価格でご購入希望の方は URL (http://shop.kousinen.com/) よりお申込ください。



編集後記 今秋、各地で秋祭りが完全復活しました。長らく制限されていた声出しも解禁され、威勢の良い「ワッショイ」が響き渡り、喜びもひとしお。新型コロナウイルスの脅威がなくなったわけではありませんが、活気に満ちた日常が今後も続きますように…。と切に願うばかりです。